



学習だより

第17号

令和7年11月18日発行

宇都宮市立陽北中学校
学習指導部

「学習だより」は、本校のホームページからご覧になれます。
携帯電話・スマートフォンから、QRコードを読み取ってご覧ください。



2学期中間テスト号 「今こそ、積み重ねの力を信じて」

秋の風が肌に冷たく感じられるようになり、季節の移ろいを感じる頃となりました。校庭の木々も少しずつ色づき始め、教室の窓から見える景色にも秋らしさが増してきました。そんな中、2学期の中間テストが近づいています。夏休み明けから積み重ねてきた学びを、今こそ自分の力として発揮するタイミングです。

テストというと、「点数」や「順位」に目が向きがちですが、実はそれ以上に大切なのは、**準備の過程や振り返りの姿勢**です。どんなふうに取り組んだか、どこでつまづいたか、何を工夫したか。それらすべてが、これからの学びにつながる大切なヒントになります。

◇生徒のみなさんへ◇

テスト前は不安になったり、焦ったりすることもあると思います。でも、そんな時こそ「今の自分にできること」を一つずつ積み重ねていくことが大切です。授業で使ったプリントやノートを見返してみたり、友達と問題を出し合ってみたり、先生に質問してみたり。小さな行動が、大きな自信につながります。

特に数学では、「わかったつもり」になりやすい単元もあります。公式を覚えるだけでなく、どう使うかを意識して問題に取り組むことがポイントです。間違えた問題は、むしろ“宝物”！ 解き直すことで、理解が深まり、次に同じような問題が出たときに自信を持って取り組めるようになります。



◇保護者のみなさまへ◇

テスト前は、子どもたちが少しピリピリしたり、口数が減ったりすることもあるかもしれません。そんな時こそ、そっと寄り添うような声かけが力になります。「頑張ってるね」「応援してるよ」という言葉は、何よりの励ましです。結果だけでなく、努力の過程にも目を向けていただけると、子どもたちの自己肯定感にもつながります。

また、テスト後の振り返りも大切です。「どこができたか」「どこが難しかったか」を一緒に確認しながら、次につながる学びを見つけていきましょう。失敗も成功も、すべてが成長の材料です。

最後に…。秋は、実りの季節です。学びも同じように、日々の積み重ねが少しずつ形になっていきます。「中間テストは」、その途中経過を確認する大切な機会。結果に一喜一憂するのではなく、自分の成長を感じられるような時間にしてほしいと願っています。

寒さが増す季節ですが、心にはあたたかな灯をともして。一人ひとりが、自分らしく前向きに学びに向かえるよう、私たちも全力で応援しています。



「お母さんのために」で、学年1位

中村文昭さんという人が書いた『お金でなく、人のご縁ででっかく生きろ!』という本に次のような話が紹介されていた。

ある少女がいた。

その少女は塾にも行かず、家庭教師にもつかず、学年一の成績をとっていた。

かといって、その少女がもともと優秀だったわけではない。それに、塾に行ったり、家庭教師についたり、市販の教材をやったりしているわけではない。

あることをして、学年1位になったのだ。

それは、今日習った勉強を、家でお母さんに全部教えてあげるというのだ。今度は少女が先生の役になって。

というのは、その少女のお母さんは、経済的な事情で勉強ができなかった。つまり、満足に学校に通えていなかったそうだ。そこで、少女が「私がお母さんに教えてあげる」と、その日に習った授業の内容を全部お母さんに教えていた。

お母さんに対する思いが詰まった、いい話だとは思うのだが、それとは別に勉強の方法について考えさせてくれる話である。

それは、「人は教えることで自分も成長する」ということだ。

勉強の方法として、自分が先生役をしてほかの人に説明するというのは、すごく自分の力になる方法だ。

以前、「学習だより15号：一番記憶に残る勉強方法は次のうちのどれだと思う？」という記事の中でも書いたことだ。

また、もう一つ大切なこともある。この少女のやったことには、「お母さんのために」という要素が加わっている。

人は「だれかのために」と考えたとき、使命感が生まれ、大きな力を発揮するのだ。このことについては、また改めて書きたい。

